

研究のことなど

世界にはいろいろな社会があるとはいえ、現在の私たちが普段暮らしている社会は基本的に豊かな社会であり、また人生の選択肢が非常に多様にある社会です。これは決して悪い社会ではないでしょう。先人たちがよかれと思って様々に努力を積み重ねてきた成果を私たちは享受しているのです。でも、私たちはそんな社会の中で意外に苦労しながら生きているのではないのでしょうか。お金がないから大変、病気や怪我をして大変という話は、ひとまず別にしておきましょう。幸いにしてそういうことがほとんどなくても、やはり生きにくさは残ります。

例えば今言ったような、選択肢がたくさんあるということ。好きなものをすぐに選べるなら、こんなにありがたいことはありません。しかし、「どれを選んだらいいのだろう」と迷い始めると大変です。重大な選択で迷えば迷うほど、多大な時間とエネルギーを消耗させられてしまうでしょう。かといって、よく分からないまま選んでしまって、後で悔やむのもまた辛いものです。私たちは、本当は選ぶことがあまり得意ではないのではないのでしょうか。——ということは、つまり現代社会の諸条件に適応しきれていないということなのではないのでしょうか。

「選ぶ」のは、人間関係もそうです。いろいろな人とお付き合いができる社会であり、嫌でもある程度はいろんな人と関わりを持って生きていかなければならない社会です。そこにコミュニケーションの難しさも生じてきます。私たちは人と上手に関わりながら、親しい人たちとともに楽しく生きていきたいと願っているのに、時々コミュニケーションの仕方が分からなくなって、孤独を感じたりします。私の研究は、このような現状認識から始まっています。

社会マスメディア系専攻
現代社会コース
教授

すずきしんたろう

鈴木伸太郎

sctaro@socio.kindai.ac.jp



「共同体形成力」と題する論文を書いたことがあります（近畿大学日本文化研究所編『危機における共同性』風媒社、2012年所収）。現代のような社会になる以前、人間は比較的小さな共同体の中で生活することが当たり前でした。人生の選択肢も限られていましたが、人間関係の範囲も限られていました。閉鎖的だと悪く言われることもあります。その分安心して身をゆだねることができる、拡大した家族のようにイメージできる人間関係です。でも、現代社会はそのような共同体の影がどんどん薄れていく社会です。私たちにはもう「故郷」はないのでしょうか。...それでも、現代の私たちが学びつつあるのは、できるだけオープンな態度で人に接するという姿勢です。見ず知らずの人だからといって拒否せずに、関心を持って互いに働きかけていく方法をいくつも私たちは手にしているのです。現代社会を孤独な砂漠にしない

ための鍵を私たちは握ってはいなくもないのです。今まで関わりのほとんどなかった人たちとの間で必要に応じて共同体を作り出す力。これが今後ますます大事になるでしょう。

「自然・社会・孤独」という論文も書きました（近畿大学日本文化研究所編『自然に向かう眼』風媒社、2015年所収）。動物を相手にする場合、言葉は通用しません。先に述べた「オープンな態度」が真に問われてきます。そして、言葉が簡単に通用しなくなればなるほど、人間はコミュニケーションの「原点」に回帰するようになってくると言えます。

物言わぬ大自然に対するとき、頭の中の「おしゃべり」は消えていかざるを得ません。でも、そうやって言葉や思考に煩わされなくなったときに、思いがけず、生きることを純粋に楽しむような気持ちが湧いてくるものです。そこから逆に日常の喧噪の意味が見えてきます。あまりに素早く物事を処理しようとしたり、問題を解決しようとしたりして焦ると、私たちは大事な人間としての「原点」を見失って、「何のために生きているのだろう」というような孤独な思考に囚われてしまいやすいのです。自然の中に生きるのが人間の「原点」であることは疑いなしでしょう。特別なことも秘密も何もなく、私たちの「原点」は赤ん坊の「原点」と共通であり、生きることに無条件に前向きになる状態なのです。問題解決に特化した現代人の思考習慣に関しては、現代社会に適応していくためには、あまりこだわりすぎないようにしていくことが大事だと私は考えています。

個人的なことやゼミのことなど

研究の話はこのくらいにして、私自身のことを少しだけ。私は結構パソコンをいじくることやゲームをすることにはまりやすい体質だと自覚しています。特にゲームは、夢中になって他のことができなくなる危険を感じています

から、極力関わらないようにして生きています。そして、もっとマイルドな趣味に向かうようにしています。例えば写真を撮るとか。それに連動するのですが、街歩きなどというものも大好きです。何も特別なものがない、「普通の」街を訪れては、道行く人やその辺りに住む人たちの生活を想像しながらうろうろ歩き回るのが好きです。それにまた連動しますが、鉄道に乗ったりするのも好きです。...おいしいものを食べるのは当然好きですが、自分で料理してみることも時々夢中になります。連動して、スーパーの買い物や、入ったことのないスーパーを見て歩くことも好きですし、コーヒーとかお魚とか肉とか、そんなに高くなくてもおいしい食材を買える店を探したりするのも燃えますね。



研究室では昼休みなどにお弁当食べてゼミ生と話をしたり、ということが結構多いです。ゼミ生と日帰りのツアーをしたり、泊まりがけの旅行に行ったりすることも毎年しています。大学近くに住む社会人の人たちとも勉強会をよくしていて、クリスマスの時など、学生と一緒にパーティーをしたりもしています。友人の先生なんかは私を訪ねるついでにゼミに付き合ってくださいって、議論に参加したりコメントを残してくれたりもします。ゼミ生が研究室の本棚から勝手に面白そうな本を取り出して読むとか、家に持って帰ってしまったりすることもよくあります。今後もそういう雰囲気は大事にしていきたいですね。